

# 未来ファンドおうみ通信

NO. 7

2017年3月1日発行  
淡海ネットワークセンター

<http://www.ohmi-net.com/>

げんさん食育 NPO 基金助成

## NPO 法人あめんど

採択事業は「僕らが主役の課外授業～大豆で食育～」です。

6月に畑を耕して大豆の種を蒔きました。7月上旬、畑にいくと大豆が芽を出していました。9月には草を刈り、絵に描いて成長記録をとりました。11月中旬、枝豆のサヤが茶色くなりりっぱな大豆になりました。枝をぬいて収穫です。根に着いた土を振り落として持ち帰りました。4～5日たって枝を振ると、パチパチと豆が出てきました。



12月に湖北の伝統食を伝える肥田文子さんに指導いただき「いさざ豆」「打ち豆汁」の郷土料理をつくりました。加えて「あめんど乾燥野菜の炊き込みごはん」「蕪の柚漬け」「ミカン」と栄養いっぱいの食卓をみんなで囲みました。1月中旬には“大原・水のプロジェクト実行委員会”の安田真さんの指導で豆腐作りをしました。

自分たちの育てた大豆が食品になる過程を体験し、やれば出来ることを実感しました。そして、発達障がいの児童と一緒に活動することで、一般の子ども達も彼らへの理解を深めることが体験できる事業でした。

おうみ NPO 活動基金助成

## いざない湖北定住センター

採択事業は「空き家を活用した子どもの遊び場から始める『新たな結』づくり」です。

4月に事業実施候補地を選定し、それに伴い長浜市、地域、子育て団体などと協議を重ね、計画を練り上げてきました。

11月20日（日）、長浜市鳥羽上町の旧北村医院で開催した「ワークショップと交流から振り返る～“昔 むかしの『ほどよい』暮らし”」は100人を超える参加がありました。午前中は北村興作さん指導の「昔の暮らしのお正月準備～しめ縄づくり」、お昼は地元のみなさんや“ごはん大好き！にぎにぎの会”がつくってくださった「鉢もん・おばんざいバイキング」、午後は粕渕宏昭さんの「昔のくらしひとこと講座」でした。



今後は、この事業に関わってくださった方々と活動を振り返り、空き家を活用した『新たな結』づくりの課題整理をし、その活用を検討していく予定です。

## 2016 助成先団体の活動

笑顔あふれるコープしが基金助成

### 近江八幡まちつむぎ研究会

採択事業は「まち×想い★にぎわいづくりプロジェクト」です。

仲屋町通りにある「近江八幡まちや倶楽部」と「ヨソモノ」である同志社大学の学生が協働で、文化・芸術活動を通じて地域文化の創造や地域のコミュニティの再生に取り組んでいます。

4月から5月にかけてイベントの内容について検討する会議をのべ10回開催しました。また、近江八幡市内在住の方々にヒヤリングを実施し、地域文化などの理解や地域の課題について把握しました。6月にはホームページやフェイスブックを立ち上げ、7月から広報活動にはいりました。

このようにして準備されたワークショップイベント「まち☆たんけん」は、10月23日、10月30日、11月20日、12月11日に開催し、幼稚園児や小学生とその保護者が参加しました。この活動で子どもたちが描いた色とりどりの絵を、12月下旬に近江八幡まちや倶楽部の玄関に展示しました。



びわこ市民活動応援基金助成

### びわこ日本語ネットワーク

採択事業は「外国籍住民のためのわかりやすい防災ガイドブックづくり」です。

この事業は、設立20周年を記念して取り組みました。滋賀県内で日本語を学んでいる外国籍住民や地域に住んでいる外国籍住

民、あるいは日本語習得を支援している指導者を主たる対象として、災害時の避難・誘導に関する指示語を、混乱する非常事態でも正しく聞き取れる、真に「わかりやすい日本語」で表現する防災ガイドブックを作ることを目的にしています。

防災ガイドブック編集委員会を立ち上げ、各分野から広く意見を聴きながら作業を進めてきました。

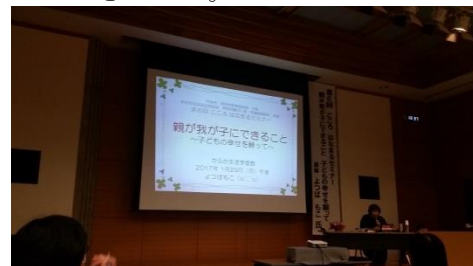


げんさん食育 NPO 基金助成

### こころ・はなまる

採択事業は「発達障がいへの理解対応を学ぶ講習会（啓発活動を含む）」です。

1月29日（日）に甲賀市かふか生涯学習館で講演会を開催しました。講師は、LD（学習障害）とASD（自閉症スペクトラム）を持つ子どもの“困り感”から次第に学校への恐怖が募っていく様子をまとめた絵本「学校コワイ」の作者・よつばもこさんです。「親が我が子にできること～子どもの幸せを願って～」と題して母親の視点からお話ししていただきました。



## 2016 助成先団体の活動

湖国文学活動応援むらさき基金助成

### 平家物語沙羅の会

採択事業は「平家物語の原文を読み解き学ぶ楽しさを味わう会」です。講師を招き、年に5回勉強会をひらきました。

3月3日には、草津まちづくりセンターで公開講座を実施します。CDで筑前琵琶の音色を聞きながら平家物語を味わいます。また、膳所の義仲寺(木曾義仲・今井兼平)、野洲の妓王井川(白拍子祇王)、安土の沙沙貴神社(宇治川先陣争いの佐々木高綱)などの滋賀県ゆかりの地を再発見する解説をします。



ナカザワ NEO フレンドシップ基金助成

### 公益財団法人

### 大津市国際親善協会

採択事業は「日本語支援ボランティア及び受講生のスキルアップ事業」です。

在住外国人・留学生・日本語ボランティアを対象として、外国人への日本語指導と日本語ボランティアのスキルアップを実施することによって、外国の方々を含めた地域社会で暮らす人々が、文化や価値観の違いを認め合い、対等な関係を築きながら地域社会の構成員として共に生きていこうとする多文化共生社会の実現をめざしています。教室を大津市内4カ所(堅田、浜大津、瀬田、瀬田東)で開催しています。また、

日本語指導を担当するボランティアの指導力向上のために京都日本語センターの講師による研修会を実施しました。



3月24日(金)には今年度のまとめの発表会を開催する予定です。

笑顔あふれるコープしが基金助成

### 地球ハートヴィレッジ

採択事業は「食育でつくる親子のきずなと地域のつながり」です。

地域の食材を利用した0歳から大人までの食育レシピと効能を学び、食事のマナーで躰を身につけます。みんなで食べる楽しさや喜びの中で感謝の心を学び親子の絆を深める受講生参加型講座をおこなっています。



6月18日、6月30日、7月14日、8月4日、9月8日に「乳児からはじめる食育で楽しい料理教室 太陽と地球の台所」を開催しました。毎回9組前後の親子が参加しました。

## 2016 助成先団体の活動

積水化成品基金助成

### 夢・びわ湖

採択事業は「琵琶湖赤野井湾の現地調査と市民への啓発活動」です。

赤野井湾の水質調査、水草除去活動、清掃活動、イケチョウガイの観察、琵琶湖再発見事業をおこなっています。定例の活動としては、パックテストによる赤野井湾の水質調査、特定外来生物のオオバナミズキンバイの除去や他の外来植物の繁茂状況を写真で記録するなどの環境調査を実施しています。また、市民に赤野井湾の現状に対して関心を持ってもらう啓発活動をおこなっています。

10月2日(日)に、積水化成品グループ社員の方7名と、会員6名による活動を実施しました。船で沖に出て、イケチョウガイの洗浄・大きさ・重量等の測定とオオバナミズキンバイの引き上げ除去作業をしました。お昼は、子鮎のてんぷら、佃煮、しじみのみそ汁など琵琶湖の恵みやおにぎりを試食しました。午後は湖岸でゴミを拾い、岸からのオオバナミズキンバイの除去作業をしました。当日は好天に恵まれたのですが暑さが厳しかったので汗をかいての作業でした。その後、社員と会員が意見交換をし、親睦を深めました。



びわ湖の日基金助成

### びわ湖りす森倶楽部

採択事業は「びわ湖水源の森地域性苗木生産事業」です。滋賀県産のよりよい山行苗木生産と普及推進で林業の活性化と産業をおこし、公益性のある森林づくりを目指しています。新規参入可能な効率のよい生産をめざし、苗木生産のネットワークをつくり、滋賀県産抵抗性アカマツの普及推進と良質な苗木作りをおこなっています。さらに、農業イベントを通して、農業者にも「農業しながら林業する」という方法での



無為のない生産量拡大を学んでもらっています。

4月～5月にかけてコンテナ苗木の種を蒔きました。水やりは福祉施設との連携による農作業訓練指導としておこないました。5月に福祉施設との勉強会を兼ねた定植イベントを実施しました。7月～9月には、植付けと収穫の繰り返しです。そして、9月に山行苗木需給調整会議にむけた苗畑調査をおこないました。

今後は、任意団体から法人への移行手続き、よりよい苗木作りへの勉強会、福祉施設との連携を深める活動などを計画しています。

### お問い合わせ先

淡海ネットワークセンター（公益財団法人 淡海文化振興財団）

〒520-0801 大津市におの浜 1-1-20（ピアザ淡海2F）

TEL：077-524-8440、FAX：077-524-8442、e-mail:office@ohmi-net.com